

札付きゴン太こと

ゲンさんの自立

原田 太郎（六十四歳）



愛甲郡愛川町

平成一五年三月二十一日

発症（脳内出血）

身障一種一級

七沢リハビリテーション病院

脳血管センター入院十月退院

それは平成一五年三月二十一日突然やってきた。若い時からやりたかった人生最後のこの仕事を始めて三年目。つい数時間前まではお客さんのおもてなしをしていた。と言つても料理をしながら、お皿を洗いながらであるが。ご機嫌の時空、朝起きて「さあて、今日も仕込だ！人生だ！今日は誰がきてくれるかな」とシャワーを浴びている時、大異変発生！？最初は左手指先のしびれ感。次は左足親指、その隣の指と順番に少しづつローソクの火が消えていくが如く感覚が無くなっていく…。

死ぬとは思わなかったが、不安は東京ドームよりでっかく「きたあゝ？？きたあゝ？？きたあゝ？？こりやいけねえゝ！てえゝへんだあゝ！！！」と思つた。その時思いつきり気付いたこと、真つ先に頭に浮かんだこと特別に教えよう。「オールヌード（フルチン）で救急車はないだろう…」ってな。

急いで体を拭いて、トランクス（俺いらの田舎じゃ猿股とも言ふ）はいて、大邸宅？（と言いたいところだがほんの七ゝ八歩だ）の居間へ行く途中、娘の部屋のドアをたたき「きたぞおゝ」って起こした（ここまではまずまず）。居間のソファの下に座りこんで、左方向の携帯電話を手にしようとしたらそのまま左へゴロリン…。このときや完全に麻痺がおいでなさつていて自分じゃどうにもこうにも起きられねえってわけ。娘に起こせと言つたところで、どっこい、こりやまた簡単に起こせるもんじゃねえ。このときや左半身完全麻痺。やつこのことで起き上がって、救急車の指示。意識はなんとかあつた。ここまでがゲンさん（おいらのこと）の「前世」と呼んでいる。「現世」との分かれ道つてわけさ。

一番近い個人病院に搬送（荷物じゃねえぞ）されたが、直ぐに「転送します」って救急隊員の有難いお言葉。